

QUICKコンセンサスDI 項目仕様

【算出方法】

(1) 月末時点で5社以上のアナリストが業績を予想している銘柄について、3カ月前の月末時点のコンセンサス予想と比較します。3カ月前の月末時点でも、5社以上のアナリストが予想する銘柄が対象です。

(2) 同じ決算期の予想連結純利益が3カ月前と比べて3%以上、上方修正していれば「強気」、3%以上の下方修正であれば「弱気」、業績の変化幅が3%以内であれば「変わらず」と分類します。黒字転換は「強気」、赤字転落は「弱気」とします。赤字継続の場合、3%以上赤字額が増えれば「弱気」、3%以上赤字額が減れば「強気」とします。単独決算のみの銘柄は単独純利益を比較します。

(3) 「強気」「変わらず」「弱気」の銘柄数の割合を百分比で表し、「強気」(%ポイント)から「弱気」(%ポイント)を差し引きしてQCDIを算出します。

(4) 証券コード協議会が定める中分類33業種を基に、「製造業」「非製造業」「金融」の大分類に分け、同様の手法でQCDIを算出します。

【算出期間】

連続性が確保できる2004年10月以降分を公表しています。

【対象決算期】

毎月の月末時点から3四半期(9カ月)程度先が決算期末となる決算期を対象とします。3月期決算企業を例にとると、9月中間決算の発表が一巡する11月末データ(12月1日発表)までは今期予想、12月末データ(翌年1月4日発表)以降は来期予想を採用します。3月期決算以外の企業についても、同様に中間決算発表が一巡するまで(中間期末から2カ月後まで)は今期予想、その後は来期予想を使います。

【更新日】

毎月月末時点のコンセンサスデータを基に、翌営業日の午前8時30分に更新します。

【業種別QCDI】

証券コード協議会が定める中分類33業種のうち、主要16業種について同様の手法でQCDIを算出します。16業種に絞り込んだ理由は以下の通りです。

(1) 少ない銘柄数でDIを算出すると、DIの数値が極端に振れることがあります。安定的にDIを算出するため、採用銘柄(月末時点で5社以上のアナリストが業績を予想している銘柄)が5銘柄以下の業種は除外しました。

(2) 「製造業」「非製造業」「金融」の大分類の中から、それぞれ代表的な業種を個別に公表することにしました。

(3) 大分類に配分する業種の数、QCDIの採用銘柄数の社数比率に近い配分となるように配慮しました。QCDIの算出開始（2004年10月）以降について、大分類の採用銘柄数の比率を算出し、公表業種数（16業種）に当てはめると、製造業：非製造業：金融＝9：6：1となりました。一方、大分類の時価総額比を算出し、公表業種数（16業種）に当てはめると、製造業：非製造業：金融＝8：5：3となりました。金融の時価総額が大きいことを考慮し、最終的な業種配分は製造業：非製造業：金融＝8：6：2としました。

(4) 上記の条件を勘案し、識者の意見を参考に公表業種を決定しました。

【累積QCDI】

QCDIの推移を分かりやすく表現するため、QCDIを積み上げた「累積QCDI」も算出しています。「累積QCDI」は、算出開始月（2004年10月）以降のQCDIを合計したものです。指数を累積した値は合成指数（CI）と呼ばれ、指数の「山」と「谷」を知ることができることから経済分析でしばしば使われます。アナリストの業績予想の「水準」と「強弱感」を同時に知ることができます。

【免責事項】QUICKコンセンサスは、QUICKが証券会社等の業績予想等を独自に取得、平均値を算出しているものです。QUICKコンセンサスを加工したQCDIは、情報の提供を目的としており、投資その他の行動を勧誘する目的で作成および算出したものではありません。また、各証券会社等およびQUICKは、同情報を利用してなされた投資等の結果についても理由の如何を問わず一切責任を負うものではありません。銘柄選択等の投資の最終決定は、ご利用者の判断でお願いします。